

**I 世界史B問題**

9世紀にウイグルが滅亡すると、モンゴル高原でマニ教などを信仰していたトルコ系の人々が中央アジアに流入した。彼らの一部はイスラーム教に改宗してマムルークと呼ばれる軍人奴隷となり、アッバース朝などの軍事力の中心となった。一方、中央アジアに定着したトルコ系の人々は、イラン系サーマーン朝の影響を受けてイスラーム教を受容し、10世紀には中央アジア東部にカラハン朝を建てた。カラハン朝はサーマーン朝を滅ぼして中央アジアを統一し、この地にイスラーム文化を導入した。そしてサーマーン朝のマムルークがアフガニスタンにガズナ朝を建て、中央アジアにはセルジューク朝・ホラズム=シャー朝などが成立し、トルコ系王朝が繁栄した。

(300字)

Ⅱ 世界史B問題

A

a	司馬炎
b	拓跋
c	東魏

(1)	陰陽家
(2)	太平道
(3)	燕
(4)	(ア) 司馬遷
	(イ) クシャーナ朝
(5)	王莽
(6)	(ア) 羯
	(イ) 仏図澄
(7)	宋
(8)	(ア) 上京龍泉府
	(イ) 猛安・謀克
	(ウ) ヌルハチ

B

d	趙匡胤
e	東林
f	国民党

(9)	党錮の禁
(10)	殿試
(11)	財政再建
	軍事力強化
(12)	科挙の廃止
(13)	民権の伸長
	民生の安定
(14)	戊戌変法
(15)	鉄道事業
(16)	二十一ヵ条要求
(17)	西安
(18)	プロレタリア文化大革命

**Ⅲ 世界史B問題**

イギリスでは、新興市民階層に啓蒙思想が受容されたが、すでに17世紀のイギリス革命によって議会の地位が向上していたため、啓蒙思想は政治批判には向かわず、市民道徳の探究などに向けられた。アダム＝スミスが啓蒙思想に基づいて確立した古典派経済学は、産業革命期に市民階層の経済的活動を後押しする理論となった。一方、プロイセンでは市民階層の成長が充分ではなかったため、啓蒙思想は君主の専制政治を支える理論となった。フリードリヒ2世は商工業の保護育成を行うなど、啓蒙専制君主として上からの近代化を目指した。しかし、地主貴族であるユンカーを統治の基盤とせざるをえなかったため、農奴制などの社会構造の改革は進まなかった。

(300字)

**IV** 世界史B問題

A

a	サラミス
b	北海
c	リューベック

(1)	カルタゴ
(2)	ウェルギリウス
(3)	後ウマイヤ朝
(4)	両シチリア王国
(5)	ヨハネ騎士団・テンプル騎士団・ ドイツ騎士団（3つのうちから2つ）
(6)	デンマーク王国

B

(7)	シオニズム
(8)	イサベル
(9)	アムステルダム
(10)	メアリ 1 世がカトリックを復活したため。
(11)	ホーエンツォレルン家
(12)	ハノーヴァー朝
(13)	オーストリア
(14)	綿花・サトウキビ・タバコ (3つのうちから2つ)
(15)	アレクサンドル 2 世
(16)	イタリア

C

(17)	シューマン	
(18)	パリ	
(19)	アメリカがドルと金の交換を停止し，そのため固定相場制は変動相場制へと移行した。	
(20)	個人崇拜を否定するスターリン批判を行い，資本主義諸国との共存を目指す平和共存政策を打ち出した。	
(21)	ダマンスキー（珍宝）島	
(22)	李登輝	
(23)	経済開発のために強権的支配体制をとり，先進国から技術・資本を導入し，輸出を進めた。	